

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム たんぼぼ
(ユニット名)	グループホーム タンボボ
所在地 (県・市町村名)	静岡県焼津市下小田146
記入者名 (管理者)	池田 敏枝
記入日	平成 19 年 6 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホームの理念「健康で、ゆったり、生きがいのある生活」に基き地域に「グループホームたんぼぼ」という施設があるということを知って頂きどの様な所か理解してもらう。</p>	○	1階にデイサービスが併設されているので利点を生かし、休みの日には開放して近隣のお年寄りにも気軽に遊びに来て頂きたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>利用者の生活の基本は理念に基いたもので、その中で日々臨機応変に取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会や面会時には説明をしている。業界の中では理解できるが他の所では、理解されている家族は少ない。</p>	○	家族会、行事、ホームからの手紙等でその都度話をしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的とはいかないが散歩等の時は挨拶や季節の話をしている。時々草花等を頂いてくる。</p>	○	2階建ての2階にホームがあるのでハード面で1階よりは少し厳しい面もあるが、①の間の様な交流が出来ればと努めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会、行事等必ず挨拶に出向き広報はしている。地域の祭りなどにも少しではあるが参加している。</p>	○	ホームももう少し積極性を持って地域の交流という事について 意見、行動などに取り組んでいかなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティングなどで話はするが、実際に取り組みとして行った事はない。	○	②と同様にきっかけを作りお茶のみ所の様な場所として活用したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員 外部、自己評価を通して常に取り組みを実施している。	○	センター方式を実施しているがすべての職員が解っているとはいえないので研修等を通して完成させていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施はしていない。どの様な形で行ったら良いかマニュアル等あれば、又は指導して頂ける窓口があればいい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村より相談員、介護保険課より定期的に視察、来所してもらい利用者さんの声を聞いてくれている。	○	これからもこの様なシステムを通してサービス向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施していない。	○	研修などに参加し勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実施している。	○	職員のケアも必要なので悩みなどを心に留めない様指導している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。大切なことなので家族から後にこんな事知らなかったと言われない様に契約時にしっかり説明し納得してもらっている。	○ 説明しても家族の方は忘れてしまう(細かい事)人もいるのでその都度説明していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に意見箱を設けてあるが直接利用者が入れる事はないので常に個々の利用者とコミュニケーションを取りながら聞いている。	○ 馴染みの関係が必須条件だと考えるので今迄以上の信頼関係を築いていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会、受診時等に説明している。又、外泊時には記録を持ち帰ってもらい 日々の様子や健康状態を把握してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3～4回の家族会を実施しているので、その様な機会を利用して反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、ミーティング、カンファレンスに於いて実施している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	実施している。	○ 職員が急疾患等で休んでしまうと人員不足になるので職員の確保を常にしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	実施している。	○ 新しい職員や移動で配置された職員の指導は細かに行っていき 馴染みの関係が出来る様にしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修、講演等には人数が許す限り出席させている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各地域のグループホームの集いや他の施設の研修等を受け入れ実施して、お互いの長所・短所を学んでいる。	○ 全員が参加するのは困難なので時間が少しかかっても続けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、介護主任がストレス軽減の研修等に出向き専門家にアドバイスを受けて 職員に伝えている。その日のストレスはお互いに話を翌日に持ち越さない様実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	種々の研修に参加して日々の介護にプラスになるよう努力している。	○
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時にできる限り、家族より本人の情報を収集して、バックグラウンド等を頭に入れて話をしている。本人の求めていることにできる限り対応している。	○ 本人が職員一人ひとりをどの様に思っているのか、どのようなホームを願っているのかを察していく事。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談→入居までの間に何回か何って話を聞く場を作っている。バックグラウンドも重要なので、家族より本人歴を聞く。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いと利用者の思いは必ずしも一致するとは限らないケースが多いので、今、この人にとって何が一番必要なかを本人の立場になって対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり、体験入居をして頂き、その様子を見ながらカンファレンス等を開きどの様なサービスを提供していくか、焦らずに対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人から昔の話や知恵袋の様な事を教えて頂き、共に過ごす時間を大切にしている。	○	家族からの細かな情報が集まらない人もいるので、本人から情報を収集していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	実施はしているが、家族の方に支えていくという姿勢が見られないことがある。	○	家族の面会時等に、本人の日頃の状態や情報を伝え、理解を持って頂ける様にしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い、不安に思っている事などを常に家族に話をして、より良い関係を築けるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人が遊びに来て、自室で話をしていく。	○	馴染みの人達との交流を持つ機会をもっと増やしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員で散歩に出掛けたり、ホーム内でのカラオケ、唱歌や動揺の合唱、ゲーム等をして楽しむ。	○	野菜や草花を植え、みんなで世話をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院、他施設へ移動されても、時折 顔を見に行き、様子を聞いてくる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	編み物の好きな方には小さなモチーフを、縫い物の得意な方には雑巾等を作って頂くなど、趣味や特技をいかした活動の場を持つ。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	亡くなられた夫、妻の写真を置き、花を飾り、水をあげている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の健康状態を考慮したサービス提供を心がけている。	○	認知症という中で、思いもよらない事態が発生する場合もあるので、危険を予測し、日々の変化に注意する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実施している。ミーティング、カンファレンスを開き、職員全員でケアプランを実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な変化等が見られた時は、家族に現状を説明し、家族の希望を聞ながら、計画の見直しをする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かくケース記録に記入し、介護及びケアプランの作成の参考にしている。		介護→記録 どのような変化でも記録し共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	あまり実施していない。	○	今後は他の施設等を参考にして取り組んで生きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中学生在が職場体験に来て、利用者との交流を深めている。併設のデイサービスにフラダンス、銭太鼓等のボランティアが来る時には一緒に楽しんでいる。	○	近所の方との交流をもっと持てるよう、地域に密着できるようにしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスはあまり活用していないが、併設しているデイサービスへ遊びに行かせてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会などを通じた中で話を聞かせてもらっている。	○	まだこの様な取り組みは始まったばかりなので 今後定期的に進めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施している。	○	緊急時の対応の徹底をしていく。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	医療の基礎的部分(血圧測定、救急時の対応、応急処置)の勉強指導を受けたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員を出来るだけ研修等に参加し 勉強会をもっと増やしていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人に合った言葉での言葉かけ対応をしている。時には土地の方言を使った会話で和やかに対応し人格を損ねないように努力している。	○ 利用者の話題、申し送り事項はヘルパー室で行う。利用者さんの自尊心を傷つけないように個別での対応をしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者さんの話を良く聞き何を希望しているのかを見きわめ無理のない範囲で実行する。(買い物、散歩等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での生活の中 一人一人のペースは大切に 自由に過ごせる時間帯を多くとっていると共に日常生活は出来るだけ規則正しく過ごせるよう心掛けている。	日々の天候、季節と利用者の体調を考え合わせ、その日の接し方を無理なく行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院は決まった所に行く人もあるが、出張してくれる美容師さんに月一回程お願いしている。日常は、朝の洗顔後乳液を塗り、ブラッシングを行っている。	○ どんな髪型にしたいのか事前に把握しておき、本人が美容師さんに要望を伝えられない方については、職員が伝える。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚、野菜を中心に油分の多い物は控え、組み合わせ、彩り、盛り付けにも留意した食事作りをしている。後片付けは利用者さんが率先して行ってくれる。	○ 二、三人交替で買い物に行っている。枝豆を茎から取る、もやしひげをとる、皮むきなど、野菜の下ごしらえを手伝ってもらおう。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好に合わせるのは難しいが、おやつ時には甘味の苦手な方には塩辛い物を出すなど、好みに合わせるよう心掛けている。 カロリーの配慮。	○ いつも買い物に行くが、その時、個別で好きな菓子、飲み物などを買う日を設けてはどうか。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間はリハパン、パットをしようするが、日中は布パンツにパットの対応をし、不潔感、不快感のないよう見守り、心掛けている。	○	排尿チェック表を作り、それを基にトイレ誘導を行っている。夜間歩行の不安定な方も、排泄時にはすみやかに行えるよう、職員が待機している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めてしまっているが、入浴剤を入れ、リラックスして入って頂いている。	○	昼、夕方に分け、希望の時間に入浴をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、冷え性の方には湯たんぽを足元に入れ対応している。居室の冷暖房は、季節、温度により調整対応している。	○	眠れない時には、その人の好きな曲を流したり、おしゃべりをして心が落ち着くようにする。シーツ交換、パジャマのせんたくなど清潔に心掛け、気持ちよく眠れるよう支援している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者さんの誕生日会を行ったり、遠出ではないが、ドライブへ出掛ける等の支援をしている。	○	昔、よくしていた事をやっていただいたら、少しずつ張り合いがでてくるのではないかな。気晴らしとしては、近くに散歩へ出掛けている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブに出掛けた際には、自動販売機で一人ひとりお金を入れてお茶の購入をする。又、お祭りに出掛けた時は、自分の好きな物を買ひ、土産にする。	○	職員と一緒に買い物に行き、好みの服を自分で決めてもらう。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、一人ひとりの体調に合わせて出来る限り戸外に出て、外の空気を吸うように心掛けている。	○	今迄と同様の支援を行っていきたい。歩いて買い物に出掛けたい。散歩の好きな方には、なるべく時間を作り、長い距離を歩いてもらう。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春は梅、桜のきれいなところへ出掛けるなど、季節の花見ドライブを行っている。又バーベキューや日帰り温泉、足湯等、少人数で交替で出掛けるようにしている。	○	家族会として今後も出掛けられる機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をしても良い、と家族の協力を得ているので、そのように対応している。	○	定期的に絵手紙を書いているので、その時の葉書きでやり取りができれば良いと思う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実施している。当グループホームは身体拘束はしていない。	○	これからも今のようなケアを続けていくが、やむを得ない場合や安全の為の拘束については、考えていく必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室も入口も常に鍵はかけないが、夜間は職員が一人なので、安全の為入り口に鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は利用者の入眠後、居室を数回巡視の為見回っている。日中はお互いに声を掛け合い、目配り、気配りをしている。	○	注意をしても少しの間に出て行ってしまいうこともあるので、常に所在を確認するよう、職員全員心掛ける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な人に対しては、その作業が終了する迄必ず職員が付き、終わったなら、片付ける。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の起きそうな状況を考え、常に話し合いをして予防している。転倒の危険のある人には一部介助、誤薬の危険のある人には必ず服薬確認をする。	○	どんなに注意をしても事故が起きてしまう可能性がある。事故が起きそうなことがあったら、ヒヤリハット等に必ず記入するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作り、急変時の状態に応じた手当の仕方、最低の処置の仕方等の話し合いをするが、定期的には行えていない。 併設のデイサービスの看護師に相談する。	○	夜間は一人なので、特に不安が大きいので、専門的な人に来て頂き、人工呼吸等を教えてもらいたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回、防災訓練を実施している。	○	運営推進委員会などを通して協力ういお願いしていくようにする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に説明し、薬等のリスクによるものは、あらかじめ同意書を交わしお互いに理解をしていくようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。 毎食の食事摂取量を把握している。特変のあった時は、次の時間帯の勤務者に情報を口頭、申し送りノート等に記入して伝えている。	○	顔色、声のトーンなど、細部の変化にも注意する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧として一人ひとり、ノートを作りチェックする。薬が変わった時などは、申し送りノートと口頭で内容を確認するようにしている。	○	各自の薬入れを、名前のラベルがよく見えるように置き、服薬し終わった薬入れは、ふせて置き、他と一目で区別できるようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事以外の水分補給や体操等を決まった時間に行い、体を動かしている。 季節の良い時期は散歩など、戸外へ出る機会を多くしている。	○	食事の内容として、食物繊維の多い物を意識して取り入れるようにする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。	○	訪問の歯科診療を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表を作り、一人ひとりどのくらい摂取したかのチェックを行なっている。	○	夏に向けて、一人ひとりがどれくらい水分摂取をしているか調べる。水分の確保は、食事以外(10時、15時)でも補給してもらうよう習慣にしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めではないが、外出から帰ったら、うがい手洗いの励行。毎年、インフルエンザ予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用する用具等はその都度洗う。 食材は新鮮な物を購入し、使用している。期限のせまっている食材はボードへ記入して、早く使う。	○	使用后、床等の汚れはその都度清掃しているが、もっと徹底していきたい。 布巾等はその都度消毒、天日干ししている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花を植えたり、野菜を作ったりして出入りしやすい環境にしている。	○	近隣の人にもっと気軽にきて頂けるよう工夫する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、食堂の壁には、写真や利用者さんの作品、職員と一緒に作った壁面を飾っている。 四季の生花や鉢植えの花等を飾り、気分が和らげるようなカーテンやすだれを使用し、室内の光を調整している。	○	利用者さんと一緒に作った日めくりカレンダーを置くなどの工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、独り、あるいは数人で掛け、自由に過ごせるようにしている。	○	居間にはソファが置いてあるので、自由に座り、それぞれ楽しく過ごしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には思い思いののれんが掛けてあり、居室内には家族と相談し、本人が使い慣れている物、位牌、小さな仏壇、洋服掛、テレビ等、が置かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	決まった時間ではないが、午前、午後と窓をあけ換気に努めている。各居室にエアコンがあるので本人に合わせた使い方をしている。	○	空調設備を使用する際、長時間使用せず、換気に努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下、トイレには手すりを取り付け、各居室では本人の希望により、ベッド、畳の設置をし、生活状況に合わせる工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわかるように、それぞれの部屋の入り口に好きな暖簾と名札をつけ、確認が出来るようにしている。又トイレ、浴室は大きな貼り紙で示している。	○	一人ひとりの様子を見ながら、自分で出来る事は自分で行うよう支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にベンチを置いて活用している。 全員が利用できる畑、庭があるので、花を育てたり、野菜の収穫をしている。	○	花、野菜を植えたので、天気の良い日は水やりをして、利用者さんにもっと楽しんで頂く。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない 6/10第1回を開催する
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの理念に掲げてある「健康で、ゆったり、生きがいのある生活を」をベースに日々の暮らしの中で利用者が今迄に培って来た事が普通にその人らしく行動できる様に支援を常に心掛けている。個人個人に合ったサービスを提供し集団の中の1つとして出来ることは全員で取り組んでいる。